

「自ら課題を見付け、友達と協働して解決していこうとする児童の育成」

—めあてを達成するための適切な話型を活用して授業改善を図る—

低学年分科会

1 研究主題にせまるために

低学年部会では、研究主題にせまるために、課題発見や協働学習の基盤づくりに重点を置いた。低学年児童は、個々に課題を立てることが難しいことから、課題に繋がる気付きや考えを全体で取り上げることで、個人での課題発見の基礎作りをしている。

本単元では、初発の感想で、「すきなところ」「ふしぎにおもったところ」を共有し、そのわけを友達と伝え合う活動を通して学習意欲や物語への興味を引き出す。そして不思議に思ったところは、各場面の読み取りにおいて重点的に考える学習課題とし、物語の内容理解を捉えられるようにした。

協働して解決することについては、話型の活用に加え、協働して解決するための授業規律や雰囲気作りに重点を置いて指導を行っている。それに加え、本単元では、登場人物の描写を動作化し、楽しみながら想像する活動により、互いに考えたり表現したりできるようにした。

単元末の「すきなところカード」を伝え合う場面では、話型を活用し、理由を明確にして伝えることができるようにする。このような学習活動を積み重ねることで、研究主題につながると考えた。

2 目指す児童像

○友達に分かりやすく伝えたり、友達の考えを受け止めたりして、学びを深め合う子

○学んだことを日常の生活や他教科に活用しようとする子

3 授業の視点及び手立て

視点1 主体的・対話的で深い学びを実現するための言語環境の整備・言語活動の充実

○話型を生かして、根拠を明確にして自分の考えを表現することができたか。

(そのための手立て)

- ・説明時に使用する話型（「～からです。」）を板書やワークシートで示す。
- ・授業内外で話型を活用できた児童を価値付けることで定着を図る。
- ・考えを伝え合うための相手意識を重視した学習規律についての指導を徹底する。
- ・昔話の読み聞かせや動画視聴、並行読書の機会を確保し、簡単な感想文を書く経験を積むことを通して、感想をもったり表現したりすることに慣れさせる。

視点2 協働的な学びの充実に向けた学習活動の工夫

○ペアや全体で、想像したことや考えたことを交流することは、児童の考えを深めたり学習意欲を高めたりするために効果的であったか。

(そのための手立て)

- ・「たぬき」が踊りながら帰っていったときの様子や心情について、登場人物になりきってペアで動作化して考えることで、楽しみながら多様な感じ方や考え方に気付くことができるようにする。
- ・「たぬき」はいたずらが成功したことが嬉しかったのではないか、という揺さぶり発問をすることで、「いや、そんなことはない。だって」という児童の思考を促し、自分の考えを伝えようとする意欲を高める。
- ・考えをもつことが難しい児童には、選択肢の中から選ぶ形式のヒントカードを用意する。

視点3 情報機器（ICT）の効果的な利活用

○児童の視覚的な理解を支援したり、児童が考えを表現したりするための手段として、効果的に活用されていたか。

(そのための手立て)

- ・児童自身がタブレット端末を使用し、物語のあらすじについて選択して振り返ることができるようにする。
- ・提示資料や児童のワークシートを大型テレビに映し出す。